

国産バイオエタノールの取り組みについて

2026年6月1日
太陽石油株式会社

創業者	1908年
設立	1941年
本社	東京都千代田区
売上高	6,910億円 (2024年度)
従業員数	889名 (単体、2026.4.1現在)

四国事業所 (愛媛県今治市)
原油処理能力 日量13万8千バレル

沖縄事業所 (沖縄県西原町)
SAF製造プラント建設予定 / 2028年度下期よりE10ガソリン供給予定



山口事業所 中国支店 九州支店 中日本支店 四国事業所 本社 沖縄支店 沖縄事業所

SOLATO SS / サービスステーション

沖縄における未利用資源を活用したバイオエタノール生産を目指す

2028年度下期～

宮古島の既存バイオエタノールプラントとの連携。E10ガソリン供給開始に合わせた国産バイオエタノールの活用。

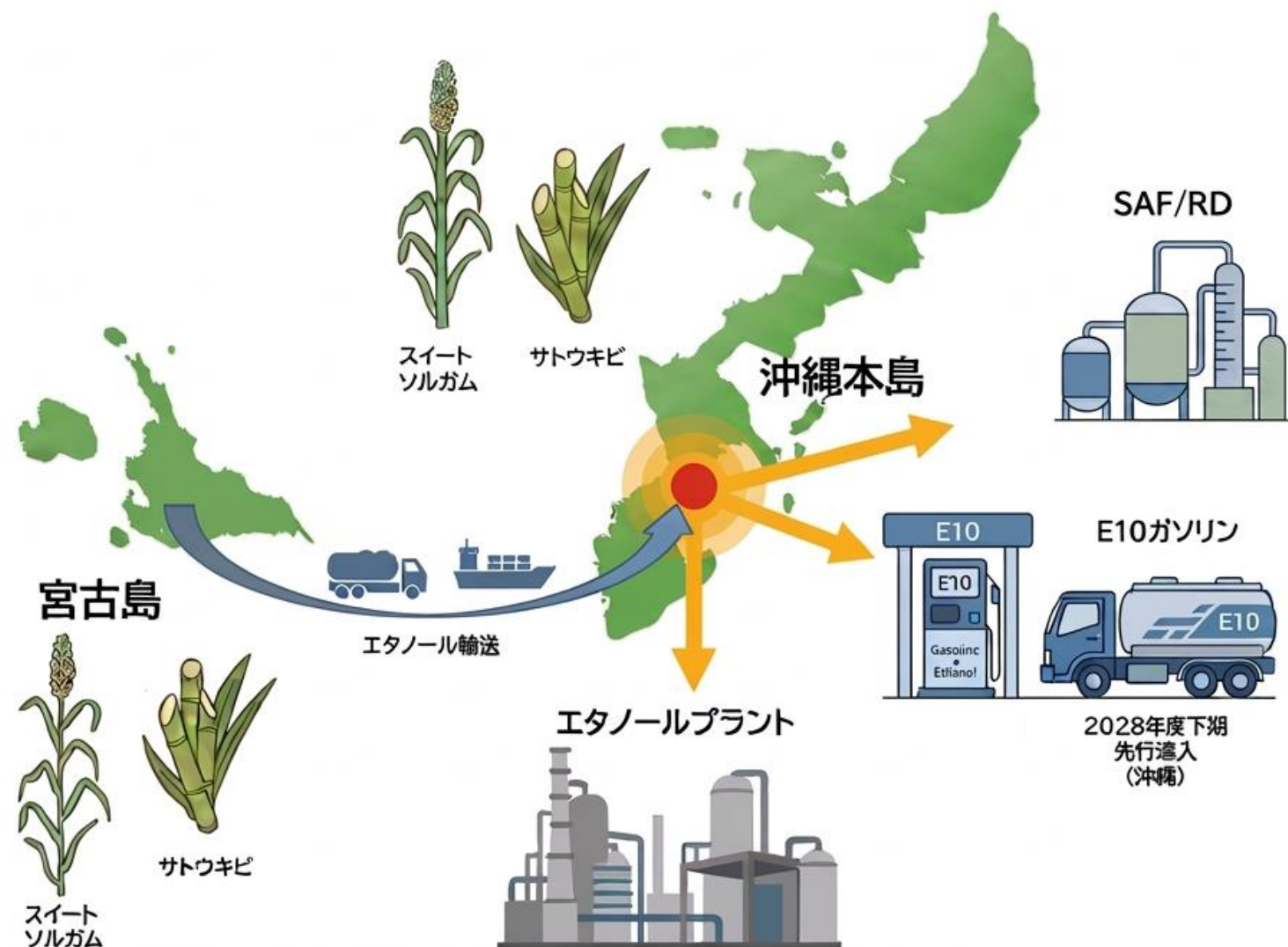
2030年度頃

- ・製糖工場との連携によるバイオエタノール製造。
- ・スイートソルガム栽培と搾汁液からのバイオエタノール製造。

2030年代前半

- ・本土におけるスイートソルガム大規模栽培・バイオエタノール製造。

将来的には様々な未利用資源を活用し、事業を拡大していく。



1. 課題解決

社会課題

エネルギー

- エネルギー偏在/地政学リスク
- エネルギー自給率が低い
- 地球温暖化/代替エネルギー

畜産・農業

- 飼料の輸入依存度が高い
- 農業人口の減少
- 荒廃農地(耕作放棄地)の増加

解決手段

スイートソルガム搾汁液からのエタノール製造

エネルギー国産化

大規模生産可能

燃料の低炭素化

農家の新たな収入源

バイオものづくりによる生産性アップ

- 搾汁液の高糖度化、糖収量の向上(資源量アップ)
- 搾汁液の濃縮⇒長距離輸送・長期保管(製造設備高稼働化)
- 高糖度発酵菌株開発と高糖濃度発酵、省エネ蒸留(コスト低減)

3. 波及効果

液体燃料
低炭素化

エネルギー
自給率向上

災害時の
レジリエンス
向上

農家所得の
複層化

地方創生

食の
安全保障

2. 事業モデル

農家にしっかり資金が還流する仕組みを構築

スイートソルガム
栽培



搾汁液/濃縮液供給



エタノール製造



エタノールプラント



販売収入



販売収入

飼料



エタノール供給



販売収入



SAF/RDプラント



E10ガソリン



化学プラント

- ・スイートソルガムの栽培は牛餌向けの販売にて自立経営が可能なレベルに達しているが、バイオエタノール製造設備に必要となる原料を確保するためには作付け面積の拡大が必要。
⇒農業関係者の皆様のご理解を得ながら作付面積を拡大していく。
- ・大規模栽培に向けた大型農機や人手不足に対応したスマート農機の開発が必要。
⇒スイートソルガムは播種・収穫の機械化が比較的行きやすいことから、栽培試験に合わせて農機メーカーのご協力を得ながら導入を進める。
- ・スイートソルガムの品種改良やエタノール製造設備の効率化等によりコストダウンを図っていく計画であるが、国産バイオエタノールは輸入品と比較し価格優位性が劣る。
⇒国産バイオエタノールの利用拡大に繋がる制度の導入や支援策について検討をお願いしたい。